

わが前橋の 地形と地名

講師メッセージ…田村 祐司（群馬地名研究会 会員）

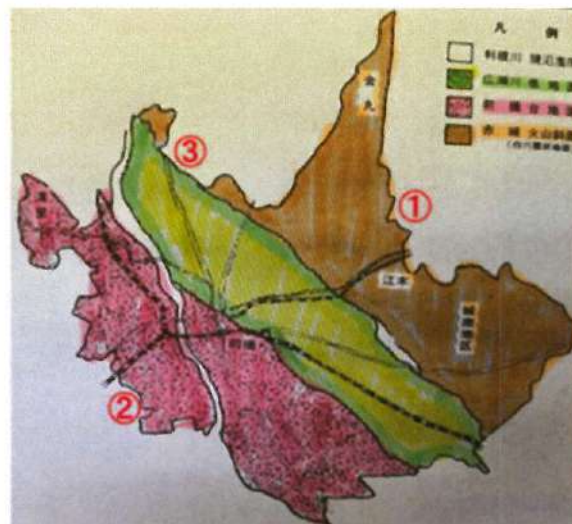
人の名前は、両親のわが子への愛情一杯の想いが込められて命名されますが、地名もその土地の特徴等を基に名付けられるケースが多いです。このように、全ての名前には名付けられた理由（由来）があります。

前橋の地形は、①北部の赤城山麓と、②浅間山の噴火による火山灰が積もった南西部の前橋台地、③前橋の北と南の高台の間を流れていた旧利根川流路によってできた広瀬川低地という、3つの部分に分けられます。そして、前橋の地名も、前橋の地形に由来するものが多くあり、面白いです。

地名には、大きな地域を示す大字（オオアザ）と、小さな地域の小字（コアザ）がありますが、地名はお祭りをはじめとする民俗的習慣と同様の無形文化財の一つです。

今回のお話では、前橋の地形の概要、その地形に関連する地名の由来を紹介したいと思います。また、前橋の小学校名や地元桂萱地区の地名由来に関しても、少し触れさせていただきたいと思います。

今回の地名談義が、身近な地名や地形に興味を持つきっかけとなり、春の温かな南風に誘われて、地形と地名由来を確認しながら、散歩やジョギングをしていただければ、嬉しく思います。



旧前橋市の地形(平成の大合併:2009年以前)

- ① 赤城山麓面
赤城山と榛名山の扇状地を南下する川
→利根川は現流路(北から南へ)
- ② 前橋台地
24,000年前(旧石器時代)の浅間山大爆発
→利根川を流れる浅間山火砕流の堆積
→前橋台地 形成
- ③ 広瀬川低地帯(古利根川の流路)
→利根川流路の変遷①(2万年前)
前橋台地 形成 現流路→橋山から南東へ
→赤城山南麓を浸食(北崖)→桃ノ木川 形成
→流路が南へ移動
→河川分流で、氾濫原(低地)と中州(島・高値)形成
住民は中州(野中、小屋原、小島田、大島)に住む、石仏
→前橋台地も浸食(南崖)→広瀬川 形成



利根川流路の変遷②(1400年)(古利根川→現利根川)

- 1) 古利根川から石倉城への取水がきっかけ
- 2) 1400年頃(室町時代)の大洪水
→現流路(厩橋城・県庁西を南北)に戻る

開催概要

●日時 3月28日(土) 午後2時～

●主催 宝禅寺

●場所 宝禅寺(前橋市上泉町1277-1)

●連絡先 TEL 027-269-4350

●参加費 500円

(講演の教材購入や資料作成に使わせていただいております)

講師プロフィール

1963年元旦、前橋日赤生まれ。桂萱小学校・桂萱中学校出身。前橋市亀泉町在住。小学校から始めたサッカーとランニングを大学まで取り組む。体育学部を卒業後、伊勢崎市立第二中学校を経て、現在東京海洋大学に勤務(保健体育)。専門は水辺安全教育。群馬地名研究会 会員。宝禅寺・如意寺世話人。